

高齢者のうつ自殺予防対策事業

= 住民とつくる地域の見守り体制 =

(実施期間) 平成 24 年度～

(基金事業メニュー)

人材養成事業・普及啓発事業

(実施経費) 平成 26 年度 217 千円

(実施主体)

(200 千円)

北海道天塩町

【事業の背景・必要性】

高齢者のうつ病に関する町の課題として、①高齢者にはうつ病がないと思われている②高齢者の不調は「年によるもの」と考えられやすい③専門家（精神科）の敷居が高い等があり、平成 24 年度から高齢者のうつ病に焦点をあてた取組を始めた。24 年度は町民対象の講演会を開催。知識を定着させ、気づきや相談・受診行動を促していくには重点的な介入が必要との考えから、25 年度より町内にモデル地区を選定し、早期発見・支援につながる地域づくりに取り組んでいる。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

総人口 3,335 人、高齢化率 31.7%（平成 26 年 10 月末 住民基本台帳）で高齢化が進んでいる。主幹産業は酪農であり、西は日本海に面し漁業も行われている。自殺者数は近年 1、2 名で経過しているが健康づくり計画策定時の町民アンケート（平成 15 年、22 年度実施）では、「心の健康状態が良くない」と答える高齢者の割合が増えている。

【事業目標 事業内容】

平成 25 年度にモデル地区で実施した実態調査を踏まえ、高齢者と高齢者に関わる支援者を対象に学習会を開催。民生委員等から「地域に気になる人はいるが介入が難しい」との声があり、26 年度は地域の見守りや相談体制を考える支援者研修会を開催した。研修会では、①相談機関につなぐ判断ができる②地域に“見守り・相談”のつながりができることを目標に講話とグループワークを行い、地域の高齢者の状況や見守りについて話し合った。また、高齢者が集まるサロンでうつ病の学習会を継続的に開催した。

●支援者研修会の内容（対象：民生委員、町内会役員、警察駐在所署員、農協職員等）

・平成 25 年度：1 回 参加者 15 名

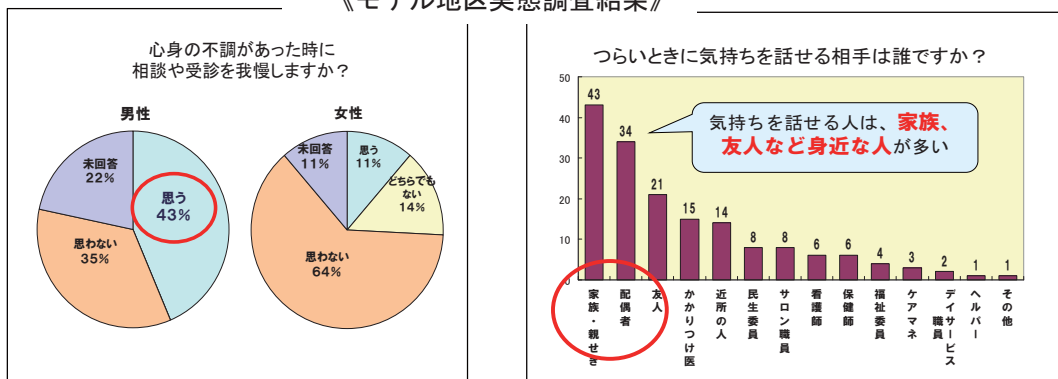
「高齢者のうつ病の特徴と対応」「地域で暮らす高齢者の現状について」

・平成 26 年度：2 回 参加者（延）34 名

「地域の見守り・相談の現状」「地域ができる取組について」

「見守りの視点や相談の流れをイメージしたネットワークシートの作成」など

《モデル地区実態調査結果》



【事業実施にあたっての運営体制】

町福祉課（保健、高齢者部署）が主体となり、保健所、北海道立精神保健福祉センターの助言、支援を受けて実施している。

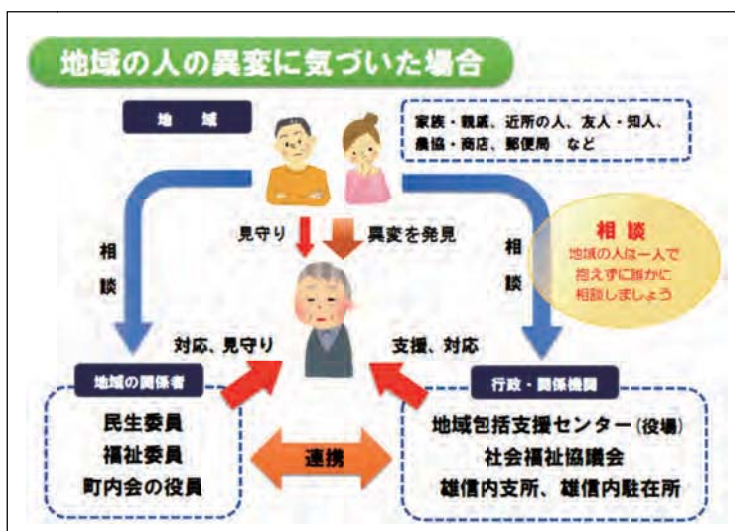
【事業の工夫点】

- ・モデル地区は町中心部から車で20分ほどの位置にある集落で、地域につながるの基盤があり、住民が変化に気づきやすく、取組により見守りや相談機能の強化が期待できる地区を選定した。
- ・自殺、うつに関する実態調査を行い、結果を高齢者サロンや支援者研修会で住民に伝え、自分たちの問題と捉えて取り組めるようにした。
- ・支援者研修会の対象を民生委員、町内会役員、警察駐在所署員、農協職員等幅広く設定し、地域で高齢者に関わる役割をもつ人同士の連携・つながりを意識する機会とした。

【事業成果及び評価、今後の課題、その他特筆すべき点】

- ・住民が主体的に地域の現状や課題を話し合い、見守りの視点や相談の流れなど地域特性に合った独自の体制を考えることができた。
- ・『支援者』として参加する中で互いの役割が再認識され、研修会自体が地域のネットワークづくりになった。また、「自分にできることを考えるきっかけになった」「高齢化が進むので地域で見守っていききたい」等の意見が聞かれ、一人一人の役割意識の強化につながった。
- ・平成27年度は、モデル地区全戸に見守りネットワークシートを配布し、見守る意識の定着を図っていく。配布にあたり「取組を知らない住民には見張られている感じを与えるのではないか」という意見があったため、地域全体が見守りの目的を理解し、活用されるよう周知の工夫が必要である。

今後も取組の評価を住民・関係機関と協働で行いながら、安心して暮らすことのできる地域づくりを推進していきたい。



《モデル地区 見守り・相談の流れ(ネットワークシートより)》



《高齢者うつ自殺予防研修会》



《高齢者サロン学習会》

(問合せ先) 北海道 天塩町役場 福祉課地域ケア係
 TEL: 01632-2-1001
 E-mail: care@teshiotown.com
 URL: <http://www.teshiotown.hokkaido.jp/>